

Title	中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響
Author(s)	趙, 明哲
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, 第50号別冊 日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号, 2011.3 : 62-66
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3158
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

中国の対北朝鮮支援が

北朝鮮に及ぼす影響

趙 明 哲

時間がないとのことですが、まず御礼を申し上げたいと思います。資料集の論文に私が普段から考えていることをいろいろ書きました。韓国の立場からすると北朝鮮の体制自体に関する懸念は大変強いと言えます。体制が極めて不安定である。その内面では国民が飢え死にしており、さまざまな形態の北朝鮮内部の権力闘争もありますし、経済が本当に底を打っています。それにもかかわらず、一方で核開発をしますし、韓国を挑発するといったことがあります。結果的には北朝鮮の体制自体が大変危険な状態であり、懸念事項が大変多いということが言えます。

その上、最近の大変大きな懸念は、北朝鮮が次第に中国寄りになっていて、二、三年の間に中国寄りになっていくスピードが非常に速いという点があります。これを抑えないと、韓国で何年か前から出てきた話ですけれども、北朝鮮地域の「東北三省化」にならないかという点があります。これを仮定すると、統合や統一という議論は一体どういうことになるのかという懸念があります。当局者としても心配ですが、このような学者、市民社会からも北朝鮮経済の中国に対する依存度だけでなく、北朝鮮社会の中国への依存度が高まっている点が大変深刻であるという、二つの点があります。

現在、統計上では北朝鮮経済の対中国依存度は大変高いです。統計を見ますと、世界でどの国がこれほど依存しているかと思うほど深刻です。北朝鮮の対中国依存度は、一九九〇年度は一一％でしたが、今は七八％です。非常に高い絶対的な比重だと思えます。貿易、投資は一位です。絶対量は多くありませんが、ほかの国に比べて大変高いと言えます。対北支援も一位です。過去数年間、支援は韓国が一位でしたが、今は中国が一位

です。エネルギー、食糧、その他の戦略物資の支援なども一位です。

北朝鮮の国民が消費生活に必ず必要な日用品の七〇%から八〇%が中国から輸入されています。それらは市場で供給され、これがないとした場合に、北朝鮮の住民の消費生活がどれほど成り立つか、懸念されるレベルです。経済統計上の依存度も高いが、細かい内訳を見ますと、中国人と中国企業、華僑を通じた北朝鮮の経済・社会、特に消費領域の中国人の役割は絶対的であると言えます。消費とか運送、統計上には出てこないさまざまな指標も中国人が華僑を通じて、華僑と連携した北朝鮮国民への支配が絶対的であると言えるため大変心配です。

問題は、一部でこのように考える可能性があるという点です。北朝鮮の経済で中国の占める比重が二〇〇〇年の二四%から二〇〇九年は約八〇%に絶対的に拡大・発展しましたが、それでは北朝鮮の経済がその間、それほど発展したと見る事ができるかという疑問が生じ得ます。しかし、実際には一九九〇年以降二〇年間、北朝鮮の中国に対する依存度が絶対的に拡大する過程の中で、

北朝鮮経済は持続的に年平均一・四%以上のマイナス成長を記録しています。北朝鮮住民は依然として中朝関係が発展する中でも、飢え死にし、少なくとも一四〇万トンから大目に見積もつて二〇〇万トンの食糧不足に直面しています。それからエネルギーが不足しているため、たびたびアパートが停電し、工場を正常に稼働できず、時間帯を分けて交互に生産しています。朝八時半から二時間、電力を供給して生産する状況です。つまり、中朝関係の発展にもかかわらず、北朝鮮経済は低迷しているのです。このような問題が我々にどれほど深刻な問題を投げかけているでしょうか？

しかし、さらに深刻なことは、北朝鮮は体制を維持するために、かつては政治的なアプローチを中心に、北朝鮮として売り込むことができ、取引の競争力のある幾つかの品目を選んで中国に輸出しており、資本と商品も購入しておりました。しかし今や北朝鮮への制裁によって、それすらまともにできない状況にあります。資料集に簡単にまとめておきましたが、果たして北朝鮮が中国との取引で競争力があるのか。現在の韓中両国の貿易は

約一六〇〇億ドル規模ですが、韓国が約三〇〇億ドルの貿易黒字を出しております。北朝鮮と中国の経済規模はこれよりもはるかに小さいです。韓中経済規模のわずか三％程度、金額に換算すると二七億ドル水準です。

ここでご覧いただきますと、経済力を評価するときに貿易特化指数を取り上げますが、一に近いと競争力があるといことです。〇・五以上だと競争力のある商品ですが、これを見ますと、北朝鮮の競争力のある商品として数百品目を考慮していますが、(そのうち)競争力のあるものは九品目しかありません。その中でも確実なものとは五品目です。そのほかの八〇〜一二〇品目は中国が優位を占めています。これでは経済ゲームになりません。商品競争力もなく、市場競争力もないということですね。中国は市場経済国家であり、北朝鮮は計画経済国家です。(競争力の面で)計画経済国家が市場経済国家と競争できますか？ですから北朝鮮と中国の間ではゲームにならない交易をしていると言うことができます。これが数十年間続いており、そのため最近残っているものはありません。最近打ち出している対策はどんなもの

のでしょう。皆様方もニュースを通じてご存知のように、鉱山を売ったとか、茂山(ムサン)鉱山開発権を中国に譲渡したとのニュースなどが伝えられています。羅津(ナジン)港三号埠頭を買取したという報道もありました。中国吉林省関係者が喜びのあまり、全国人民代表大会で放送を通じて北朝鮮の三号埠頭の五〇年間の使用权を獲得したと自慢げに話したりもしました。それに、先日はまた憂鬱なニュースを聞きました。清津(チョンジン)沖、つまり、北朝鮮北部の海の操業権を売却するというニュースもありました。よく考えてみると、このような側面があると思います。北朝鮮と中国の経済は相当密着していると言いますが、その過程は結局、北朝鮮が中国の発展のための資源供給国に転落する過程である、つまり、従属的かつ垂直的な分業体制になっているとする見解もあります。

中国の北朝鮮への支援には、鉱山への投資があります。現在、北朝鮮にはいくつかの鉄鋼所があります。金策(キムチェク)製鉄所、黄海(ファンヘ)製鉄所、千里馬(チョンリマ)製鋼などいろいろな鉄鋼所がありま

すが、これらは老朽化しているため稼動していません。ところが、中国はこれらに投資するのではなく、鉱山に投資して鉱物を持っていきます。北朝鮮が鉱山を閉鎖してしまふと鉄鉱の供給を受けられない可能性があり、そうなるとう東北三省に必要な鉄鋼が足りなくなってしまうわけです。ですから鉄鋼所には投資しないのです。造船所を支援するのではなく、操業権そのものを獲得し、直接魚を獲って持ち帰ります。これが中・朝の経済関係、つまり中国の北朝鮮への投資です。

しかし、問題は北朝鮮が中国に提供した戦略的資源、つまり天然資源、海洋資源、そしてインフラ資源などが中国が先に要請したものは全くないという点です。これは深刻な問題です。北朝鮮がみずから中国に与えています。北朝鮮で確保した海洋資源の場合、半分は韓国等へ売り、残りの半分は中国へ持っていきます。鉱物資源も同じです。北朝鮮が先に交渉を提案してきます。

こうした状況を、南北関係が対立している中で、韓国がいつまで放置しておくのかという問題があります。つまり、韓国は韓半島における唯一合法的な政府であると

自任しながら、一つの側面だけを見ているのではないかとはいいたいのです。

今や韓国は北朝鮮経済を管理できるものすごい経済力を既に有しています。経済規模が三七倍ほどにもなります。所得水準も一七〜一八倍にも及びます。また、対外交の力量とか、韓米同盟という安保的な背景などを加えれば、韓国が行動さえすれば、北朝鮮経済の中国への隷属化を防ぐことができる、あるいは時間的にも遅らせることもできると思います。そのためには韓国政府が幾つかの措置を講じなければなりません。

まずは、対北朝鮮政策において、中国というパラメーター(変数)を大きいものとして捉えられる環境をつくるべきです。良し悪しを考えて選択する問題ではありません。我々は運命的に中国を大きく捉え、北朝鮮を管理する意味で、中国というパラメーターを重視すべきであると思います。考え方を変えなければならないということです。

次に、より一層重要なことは、北朝鮮にとって中国だけでなく多様な選択肢があるということを示すべきで

す。大韓民国も日本も米国もあり、さまざまな道があります。中国という選択肢を取ることで短期的には体制を延命できるかもしれませんが、長期的には北朝鮮という民族の理念という側面では決して一つのチャンネルのみこだわることは得策ではないということを実質的にも示さなければならぬと思います。

第三に、中朝関係、南北関係を相互補完的でありながらも競争関係にしていかなければなりません。競争関係であれば私たちは自信があります。自信があるというのは、北朝鮮の経済は中国経済の中に入っているのではなく、中国の「東北経済」の中に入っているためです。今の東北経済は新生の発展段階に入りつつある状況にあります。今のところすべての面において、韓国には太刀打ちできないレベルであると言えます。そのため我々は相互競争関係を形成していかなければならないと思います。

そして最後に、中国の対北朝鮮政策、東北地域開発計画がありますが、これを適切に活用していく知恵が必要であると思います。さまざまな学者たちが中国の東北開

発と北朝鮮開発とを連動させて行う三カ国開発、四カ国開発、六カ国開発など、多様な形の構想を提示しました。これをただちに実行に移すもの、長期的に実行するもの、短期的に実行するものをそれぞれ整理し、韓国が行動に移すべきだと思います。行動のないまま批判や結果を待つことは本当にばからしいことだと思います。行動なくして批判し、行動なくして結果を待つのは愚かなことと言わざるを得ません。ですから北朝鮮に対して何らかの行動をすべきです。行動をしてこそ結果が出ると思います。現時点でこれらのことを指摘させていただきます。私の話を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。(拍手)